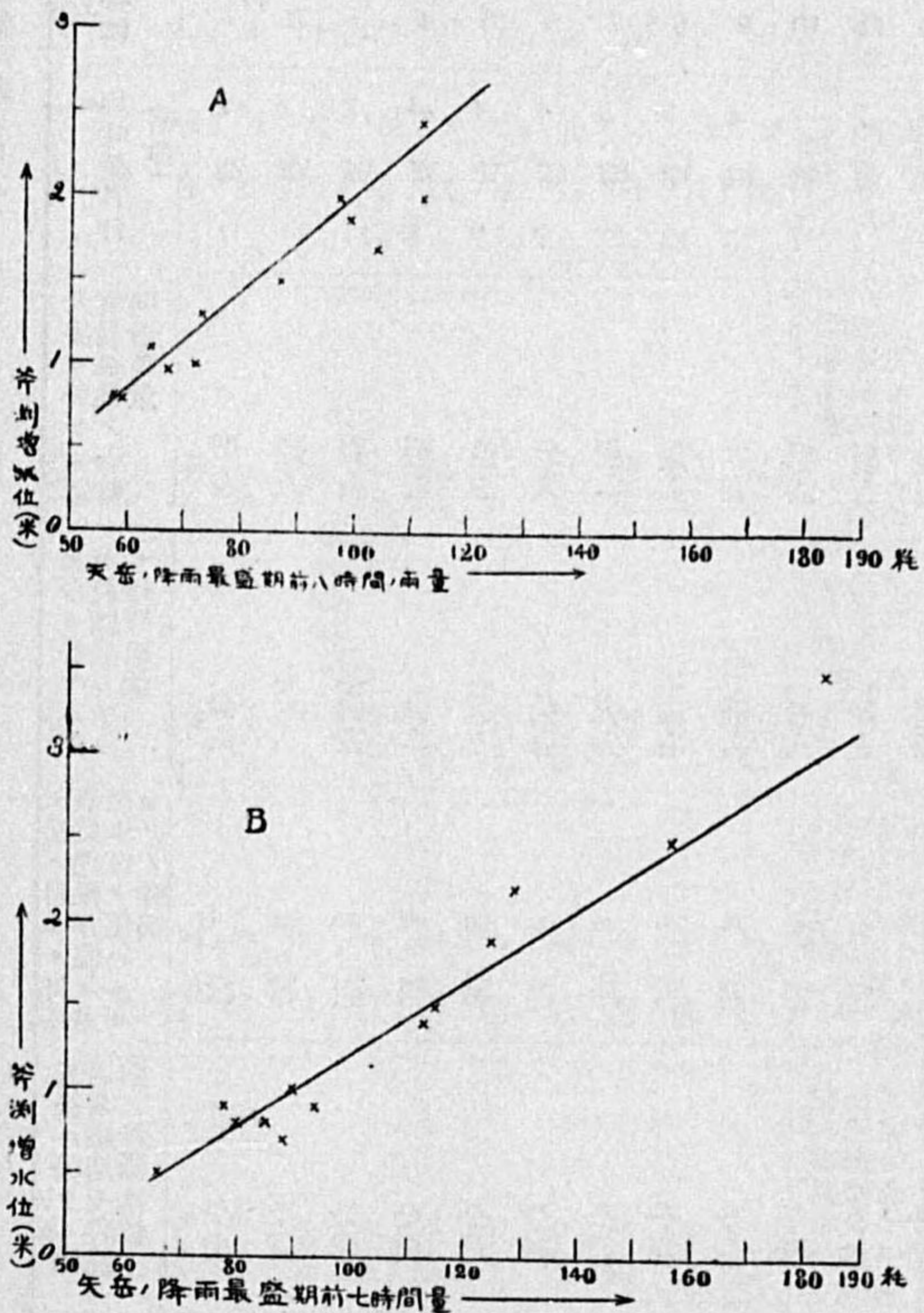


出水ノ狀況ハ降雨前ノ水位ニ關係スル處大ナルヲ以テ前掲表ハA矢岳ニ於ケル降雨最盛期八時間前斧淵水位七乃至八米ノ場合、B同七時間前斧淵水位八米以上ノ場合ト二者ニ區別セリ。

右表ニ依リテ見レハ矢岳ノ降雨最盛期ノ雨量カ斧淵ノ最高水位ニ現ハル迄ノ時間ハAノ場合ハ八時間内外、Bノ場合ハ七時間内外ナリ今前表Aヨリ

矢岳ノ降雨最盛期前八時間雨量ト斧淵ノ増水位(矢岳ノ降雨最盛期ヨリ八時間前ノ水位ト最高水位トノ差)ヲ直交軸ノ兩軸ニ取リテ圖示スレハ第二圖Aノ如ク又前表Bヨリ矢岳ノ降雨最盛期前七時間雨量ト斧淵増水位(矢岳ノ降雨最盛期ヨリ

第二圖 降水量ト増水位トノ關係



七時間前ノ水位ト最高水位トノ差)ヲ同様ニ圖示スレハ同B圖ノ如ク雨量ト増水位ハ略直線的關係ニア
ルヲ認メ得ヘシ仍テ降水量(R)ト増水量(h)トノ關係ヲ $h = aR + b$ ノ式ヲ以テ表ハシ第三表ノ資料
ヨリ最小自乘法ニ依リテ常數a及bヲ求メ次式ヲ得タリ。

Aノ場合 $h = 0.025R - 0.629$

h: 矢岳ノ降雨最盛期八時間前ノ水位ト最高水位ノ差(米)

R: 矢岳ノ降雨最盛期前八時間ノ雨量(耗)

Bノ場合 $h = 0.025R' - 1.267$

h': 矢岳ノ降雨最盛期七時間前ノ水位ト最高水位トノ差(米)

R': 矢岳ノ降雨最盛期前七時間ノ雨量(耗)

前兩式ノ計算値ト實測値トヲ比較スレハ第四

表A及Bノ如シ。

Aノ場合ハ實測水位ト計算水位トノ最大誤差ハ三一種、平均誤差ハ(±)一四・六種ナリ又Bノ場

Aノ場合

番 號	矢岳ノ降雨最盛期前八時間雨量(耗)	斧淵實測水位(米)	斧淵計算水位(米)	誤 差(米)	同上ノ實測水位ニ對スル(%)
1	58.7	0.75	0.84	+ 0.09	+ 12.0
2	112.1	2.00	2.17	+ 0.17	+ 8.5
3	64.4	1.10	0.98	- 0.12	- 10.9
4	97.4	2.00	1.81	- 0.19	- 9.5
5	67.0	0.95	1.05	+ 0.10	+ 10.5
6	86.6	1.50	1.54	+ 0.04	+ 2.7
7	98.6	1.87	1.84	- 0.03	- 1.6
8	71.9	1.00	1.17	+ 0.17	+ 17.0
9	68.2	1.30	1.08	+ 0.22	+ 16.9
10	57.9	0.80	0.82	+ 0.02	+ 2.5
11	110.9	2.54	2.14	- 0.31	- 12.7
12	104.0	1.68	1.97	+ 0.29	+ 17.3
平均				± 0.146	± 10.2

第四表

第四表 Bノ場合

番 號	矢岳ノ降雨最盛期前七時間雨量(耗)	斧淵實測水位(米)	斧淵計測水位(米)	誤差(米)	同上ノ實測水位ニ對スル(%)
1	84.6	0.80	0.85	+ 0.05	+ 6.3
2	129.1	2.20	1.96	- 0.24	- 10.9
3	184.4	3.50	3.34	- 0.16	- 4.6
4	88.1	0.69	0.93	+ 0.24	+ 34.8
5	125.0	1.87	1.86	- 0.01	- 0.5
6	89.5	0.98	0.97	- 0.01	- 1.0
7	79.9	0.80	0.73	- 0.07	- 8.8
8	114.7	1.50	1.60	+ 0.10	+ 6.7
9	65.9	0.50	0.38	- 0.12	- 24.0
10	112.8	1.40	1.55	+ 0.15	+ 10.7
11	156.5	2.50	2.64	+ 0.14	+ 5.6
12	77.6	0.90	0.67	- 0.23	- 25.6
13	94.4	0.92	1.09	+ 0.17	+ 18.5
平均				± 0.130	± 12.2

ハ流域ノ濕潤抵抗ニ大ナル差異アルカ一因ナルヘシト察セラル。

合ハ最大誤差ハ二四厘、平均誤差(±)ハ一三厘ナリ以上ノ如クシテ斧淵ノ水位ハ矢岳ノ雨量ヨリ推測スルヲ得而シテ其ノ誤差ハ其ノ時ノ増水位ニ對シテ一〇乃至一二%ナリ此ノ誤差ハ流域内ノ雨量ノ分布及強度ハ毎回異ルコト又降雨前ノ流域土壤ノ乾濕ノ程度ノ異ルコト此等ノ條件ニ基因スルモノナリ尙水位ノ低キAノ場合ハ土壤ノ乾燥セル状態ニアリテ増水ニ對スル濕潤抵抗ノ程度ハ各場合ニ於テ相當大ナル差異ヲ有スAノ場合ノ計算値ノ誤差カBノ夫レヨリ大ナル

八 結 尾

以上記述セル所ニ依リテ本川ノ増水程度ハ矢岳ノ雨量ト密接ナル關係アリテ之ヨリ豫測シ得ルコトヲ

確メ得タリ即チ斧淵ノ水位ハ矢岳ノ雨量ヨリ次ノ式ニ依リテ知ルヲ得。

A、矢岳ノ降雨最盛期八時間前ノ斧淵水位七乃至八米ノ場合

$$H=0.025R-0.629$$

H: 矢岳ノ降雨最盛期八時間前ノ水位ト最高水位トノ差(米)

R: 矢岳ノ降雨最盛期前八時間ノ雨量(耗)

B、矢岳ノ降雨最盛七時間前斧淵水位八米以上ノ場合

$$H=0.025R'-1.267$$

H: 矢岳ノ降雨最盛期七時間前ノ水位ト最高水位トノ差(米)

R': 矢岳ノ降雨最盛期前七時間ノ雨量(耗)

而シテ最高水位ハAノ場合ハ矢岳ノ降雨最盛期ヨリ八時間内外ノ後、Bノ場合ハ七時間内外ノ後斧淵水位ニ現ハレルモノナリ。

尙川内町宮内ノ水位ハ海潮ノ影響ニヨリテ推算スルコト困難ナルカ平常ノ干潮時ニ於テ宮内水位ト斧淵水位トノ關係ヲ確メ更ニ宮内ノ海潮ニ依ル水位ノ變化ヲ調査シテ之ヲ加減スルコトニ依リテ斧淵水位ヨリ大體推算スルコトヲ得タリ。

記事

昭和八年五月高知縣地方ノ山火事ト氣象

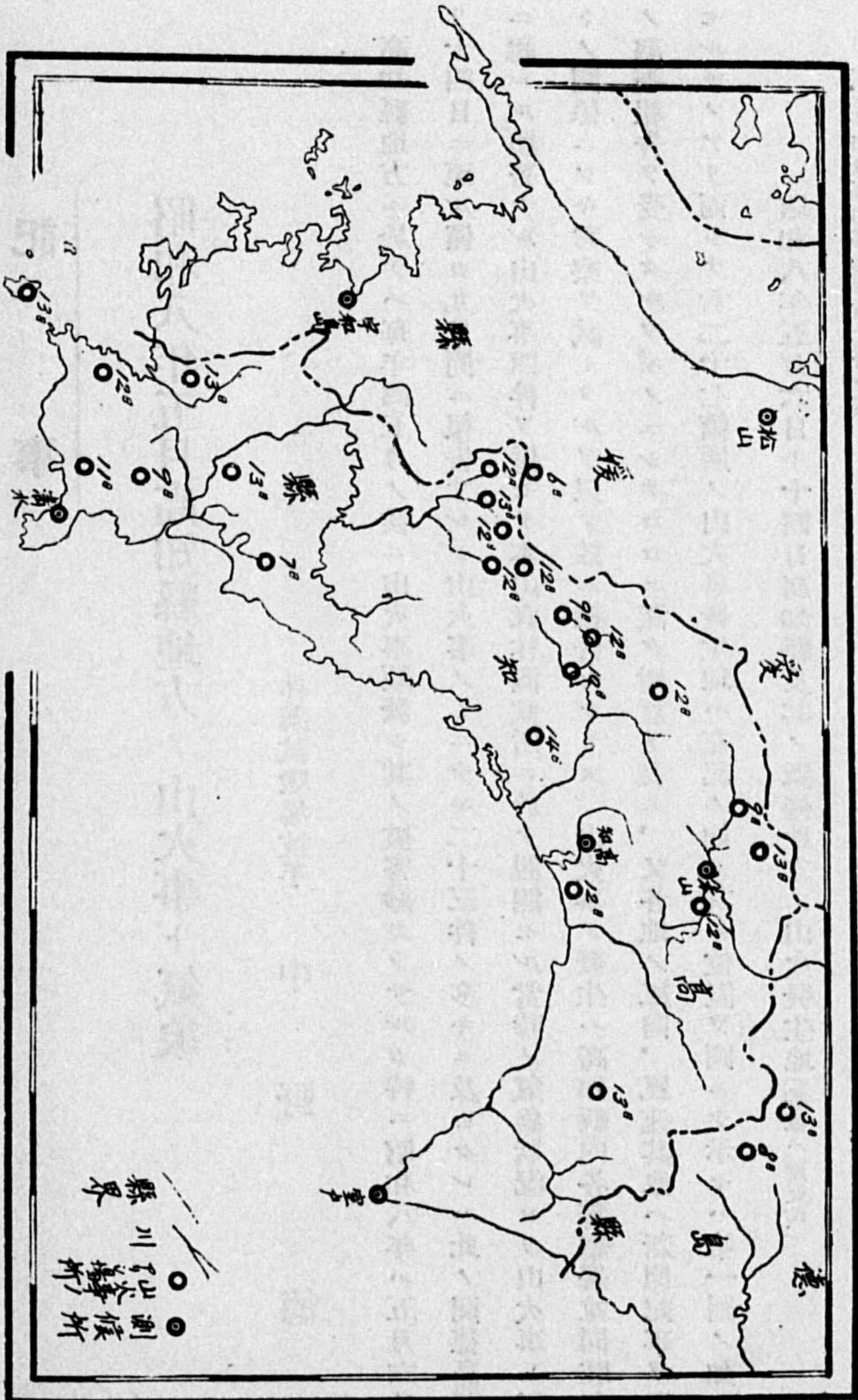
林業試驗場技手 中野 徳

高知縣地方ニ於テハ毎年四五月ノ候ニ山火事頗發シ其ノ被害尠カラサルカ特ニ昭和八年ハ五月六日ヨリ十四日ニ至ル僅カ九日間ニ報告サレシ山火事ノミニテモ二十三件ノ多キニ及ヒタレハ此ノ間徳島縣内ニ起レル顯著ナル山火事四件ヲ併セテ本山森林測候所ニ於テ觀測セル當時ノ氣象狀況ヨリ山火事ト氣象トノ關係ニツキ考察ヲ試ミタルヲ以テ茲ニ報告セントス。山火事ノ發生ハ高知縣内各警察署並同駐在所ノ調査報告ヲ受ケタルヲモノニシテココニ深ク謝意ヲ表ス、又各地ノ風向、風速其他ハ新聞記事ヲ參照セルモノアリ而シテ右二十七箇所ノ山火事發生地ハ左記ノ如ク其ノ位置ヲ圖ニテ示セハ第一圖ノ如シ。

昭和八年五月六日—十四日高知縣及其ノ隣接地方ノ山火發生地(番號ハ發火順)

- 一、高知縣高岡郡橋原村大野ヶ原
- 二、同 幡多郡佐賀村藤繩山

第一圖



- 三、徳島縣阿波郡伊澤村引地
- 四、同 那賀郡澤谷村及平島村
- 五、高知縣高岡郡別府村本村字クマウス及ハイゴヤ
- 六、同 幡多郡三原村下長谷字安ヶ平
- 七、同 土佐郡大川村井野川山
- 八、同 高岡郡越知町野老山字加枝ヶ谷山林
- 九、同 幡多郡三崎村斧積瀧川部落
- 一〇、同 幡多郡奥内村大字芳ノ澤字杉松一九二
- 一一、同 長岡郡十市村
- 一二、同 長岡郡大杉村大字小川中ノ谷山
- 一三、同 高岡郡東津野村字瀧野
- 一四、同 同 字合ノ山
- 一五、同 吾川郡名野川村字下名野川コウナロ山
- 一六、同 同 本川村南川山及小川村
- 一七、同 高岡郡橋原村越知面横貝
- 一八、同 同 四萬川ヲモ谷
- 一九、同 同 越知面
- 二〇、徳島縣海部郡年岐町及川上村境玉笠山林
- 二一、高知縣幡多郡大川筋村川登字吹越山
- 二二、同 同 沖ノ島村大字母島シイナシオ山及水谷山

- 二三、同 長岡郡吉野村大字瓜生野桑ノ川
- 二四、同 幡多郡宿毛町大字大深浦宇松木原山
- 二五、徳島縣美馬郡東祖谷山村字管生
- 二六、高知縣安藝郡東川村大字大井甲ニシテチゴヤ
- 二七、同 高岡郡戸波村永野柑子谷二五六五

前後ノ天候ト山火事回数 高知縣及徳島縣地方ニテハ本年四月中ハ平年ヨリ多雨ニシテ本山ニ於ケル降水日數ハ平年ニ比シ一二・五%、降水量ハ二七・七%多カリキ。次テ五月ニ入り三日マテ引キ續キ約三〇〇。〇耗ニ近キ颱風ニ因ル豪雨アリ、多雨多濕ナリシカ、四日ヨリハ晴天續キニテ十四日マテ十一日間全ク一滴ノ雨モ無カリキ。而シ十五日以後ハ又多雨トナリ六月初メマテ殆ト毎日雨天トナリ天候至ツテ不良ナリキ。天候以上ノ如クナリシタメ、本春起レル山火事ノ大部分ハ、右ノ好晴日ノ續キタル期間内ニ起リタリキ。然レトモ五月四、五日ハ尙豪雨ノ後ニテ土壤ハ水分ヲ多ク含ミ枯草落葉ナトモ濕潤ナリシタメ山火事ヲ見サリシカ、六日以後ハ別表本山森林測候所ノ氣象表ニ現ハレタル如ク最モ火災ノ起リ易キ氣象状態ニアリシタメ、其ノ後毎日十四日マテ二十數件ノ山火事ヲ發生セリ。就中十二日ト十三日トハ最モ發火件數多カリキ。今山火事回数ト本山ニ於ケル氣象トノ關係ヲ見ルニ、九日ニ三件ノ山火事アリシハ已ニ前日マテ五日間照リ續キ枯草ヤ落葉ハ充分乾燥シ居リタル上ニ無降雨十一日中間ニ於ケル最小湿度二七%現レ且ツ氣温モ高カリシ爲ナルヘク、次ニ二十二日ニ九件、十三日ニ八件ト異常ニ山火事ノ多

カリシハ、十一日ニハ平均湿度ハ五七・七%ニ下リ期間中ノ最小トナリ、平均氣温モ亦前日ノ一四・四度ヨリ一七・一度ト急ニ上昇シ、日照及蒸發量ハ共ニ月中ノ最多トナリ、快晴日和ニテ風速ハ當時トシテハ可成大キク平均一・四(米/秒)アリタリ、爲ニ山野ノ枯草落葉等ハ極度ニ乾燥シ居タル上十二日、十三日ト引キ續キ湿度小サク氣温高ク、前日同様ノ快晴日ニテ最モ發火スルニ都合良キ條件ノ備ハレルヲ以テ斯クモ各所ニ山火事ヲ起セルモノト考フルヲ得ヘシ。右期間中ノ山火事ノ發生數ハ左ノ如シ。

五月	四月	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	計
山火事回数	1	1	1	2	1	3	1	1	9	8	1	27

發火原因 山火事ヲ起スニ至ル原因ハ種々アレトモ、今回調査セル二十七回ノ山火事ニ就テハ大約左ノ五ツニ區分シ得ヘシ。

- 一、煙草ノ火 煙草ヲ吸フ折ニ擦リタル「マッチ」ノ火カ已ニ消エタリト誤認シテ棄テタル軸木竝ニ刻ミ煙草ノ吸殻或ハ卷煙草ノ吸殻ヨリ枯レタル草葉等ニ燃エ移リテ遂ニ火災ヲ起スニ至リタルモノ七件アリ。
- 二、焚火ノ不始末 山野ニ出テ仕事ヲ爲セル勞働者カ湯茶ヲ沸セル後ノ焚火ノ不始末ニヨルモノ及開墾又ハ植林等ノ爲ニ雜草雜木等ヲ燒却セル後ノ焚火ノ不始末ニ起因スルモノ七件アリ。
- 三、火入中ノ失火 原野又ハ代採後ノ山林ニ火入中突風ナトノタメニ飛火シテ大事ニ至リタルモノ四件

アリ。

四、炭竈又ハ炭小屋ヨリノ失火 木炭燒竈ノ不完全ナリシタメ又ハ人夫ノ不注意ノタメニ木炭小屋ヨリ發火シ附近ノ山林ニ延燒セルモノ三件アリ。

五、原因不明五件アリ。

以上ノ如クニテ一及二ノ原因ニヨルモノハ全體ノ過半ニシテ、之等ハ又靈山ノ山開キ祭典等へ參詣ノタメノ登山、勝地遊覽、神社、寺院參詣ノタメノ登山者、旅行者等ノ喫煙焚火ナトノ際ノ不注意ニ原因スルモノ決シテ尠カラズ、然シテ自然發火ニヨルモノハ全ク無カリシカ如シ。

發火及鎮火時刻 發火時刻ハ午前十一時ヨリ午後七時頃マテノ間ニアリ、其他ノ時間即チ日没後ヨリ日出後ノ數時間内ニハ全ク起ラザリキ、而シテ午前十一時ヨリ正午頃マテニ最も多ク發火セルハ當地方農家ノ習慣トシテ概ネ一日四回ノ食事ヲ爲シ「オ晝」ト稱スル第二回目ヲ十一時前後ニ行ヒ仕事場附近ニテ湯ヲ沸ス故ニ之等ノ焚火又ハ「マツチ」煙草ノ火ナトヨリ發火シタルモノ多キニ據ルヘシ、次テ午後二時ヨリ五時頃マテニ多キハ「オ茶」ト稱スル第三回目ノ時刻ニ相當スルト共ニ雜草木ノ燒却火入等ハ多ク此ノ時間内ニ行フタメト思ハル、而シテ最小濕度ノ現ハレタル時刻モ概ネ此ノ間ニアリテ、一日中ニ於テ最も良ク乾燥シ居ルコトモ發火誘引ノ一原因ナリト言フヲ得ヘシ、尙ココニ注目スヘキハ發火件數ノ多カリシ九日、十二日及十三日ハ共ニ最小濕度ノ出現時刻カ他ノ日ニ比シテ特ニ早く、午後一時半以

前ニ三〇%以下ノ小極ニ達シタル點ナリ、即チ最小濕度ノ出現時刻ノ早キハ可燃物ノ乾燥ヲ早カラシムルト共ニ當日ノ乾燥時間ヲ延長シ發火回数ヲ増ス所以ノモノナリ。斯クテ日没後ニ於テ一回ノ山火事ヲモ起サザリシハ氣温ノ急降、濕度ノ急増ニ起因スヘク、又歸宅或ハ下山ノ折ニハ相當ノ注意ヲ拂フモノト認メ得ヘシ。

時刻別發火及鎮火回数竝ニ三〇%以下ノ濕度ノ現ハレタル日ハ左表ノ如シ。鎮火時刻ハ概ネ午前十一時頃ヨリ午後九時頃マテノ間ニアリ、午後五時―六時ノ間最も多ク三時―四時ノ間之ニ次ク、而シテ自然鎮火ハ二十七回中僅ニ二回アリタルノミナリ。鎮火ハ人爲ニ據ルモノ多ク防火ノ便、不便、風向ノ如何、風

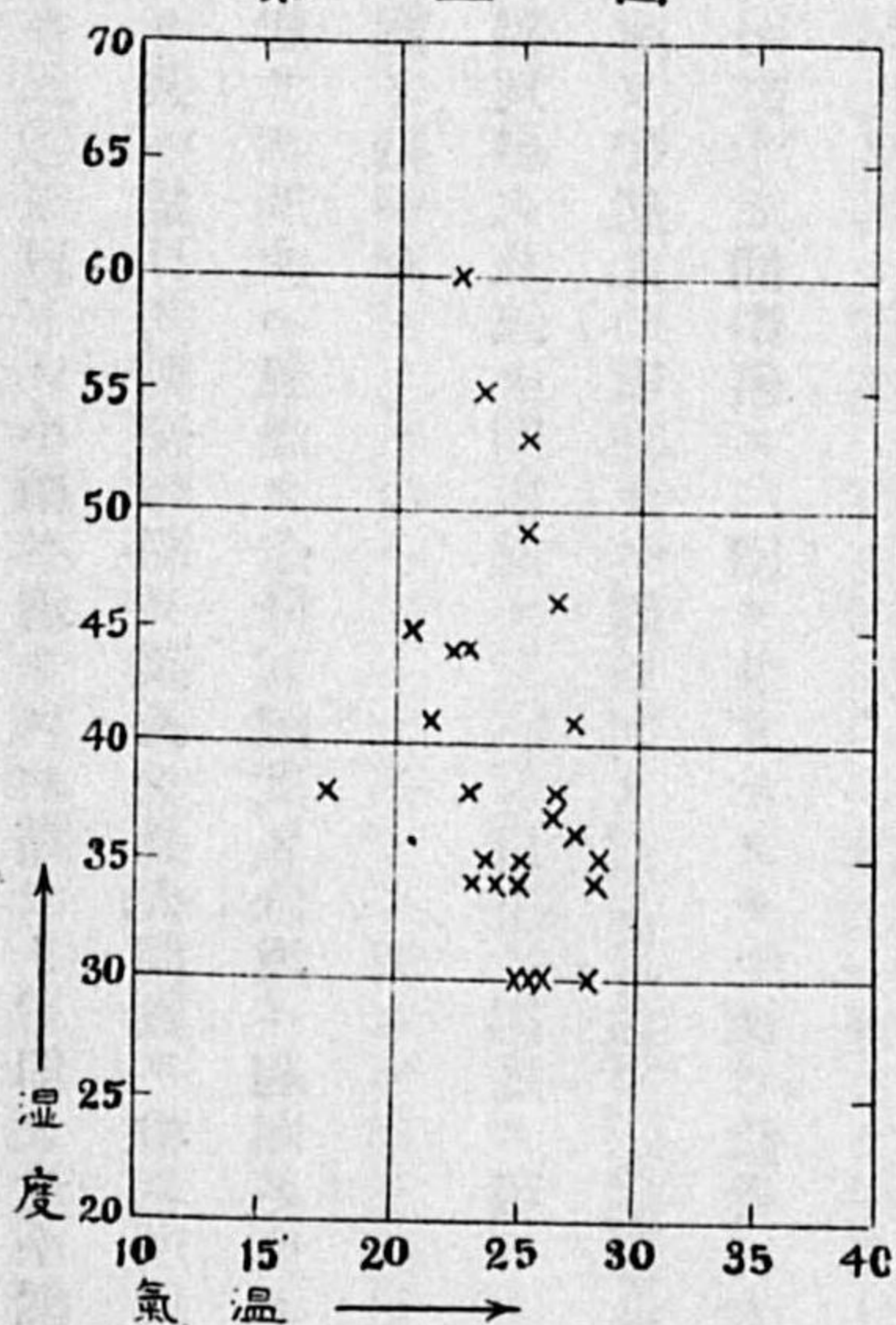
時刻別回数

時刻	發火回数	鎮火回数	最小濕度ノ現ハレタル日	自然鎮火回数
午前 0-1				ニ
1-2		一		
2-3				
3-4		一		
4-5				
5-6				
6-7				
7-8				
8-9				
9-10				
10-11				
11-12		一		
午後 12-1		二	九日	
1-2		三	四日	
2-3		四	三日	
3-4		三	二日	
4-5		四	二日	
5-6		一	六日	
6-7		二		
7-8		二		
8-9		二		
9-10				
10-11		一		
11-12				
不明		一		
計		三		

速ノ強弱、地形、地被物等ノ關係ノ大ナルハ言フ俟タス、然レトモ火災現場ニ於ケル氣象狀態ヲ觀測シタルモノナク現場ノ狀況明カナラサルヲ以テ發火ヨリ鎮火ニ至ル炎燒狀況トノ關係ヲ詳ニシ得サルハ誠ニ遺憾ナリ。

氣象要素トノ關係 本山ニ於ケル氣象觀測成績ニヨリ各發火時刻ニツイテ見ルニ、其ノ時ノ平均氣温ハ二四・八度、平均湿度ハ三九・五%トナル、今氣温ヲ横軸ニ湿度ヲ縦軸ニトリ各火災ノ發火時ノ氣温、湿度ニ相當スル點ヲ圖示スレハ第二圖ノ如ク氣温ハ二〇度以上三〇度以内ニアリ、湿度ハ小ナル程發火回數ハ増加スル傾向ヲ認メ得ヘシ。次ニ發火件數ノ多キ日ノ氣温變化ヲ見ルニ温度ノ上昇速ニシテ最高

第二圖



ニ達スルコト早ク且ツ最高ノ温度モ高シ、湿度ノ變化ハ早朝ヨリ湿度ヲ減少シ始メ減少ノ割合速ニシテ湿度ノ最小ヲ早現ス、湿度ノ最小ハ普通午後三時頃ニ現ハレタルカ發火件數ノ多キ九日、十二日、十三日ハ特別早ク午後一時半マテニ小極現レタリ。又發火回數ノ九割マテハ午前十一時頃ヨリ午後六時頃マテノ間ニシテ、一日中ノ湿度ノ最モ小ナル時間ニ起リタリ。

發火時刻並本山ニ於ケル同時刻ノ湿度及氣温

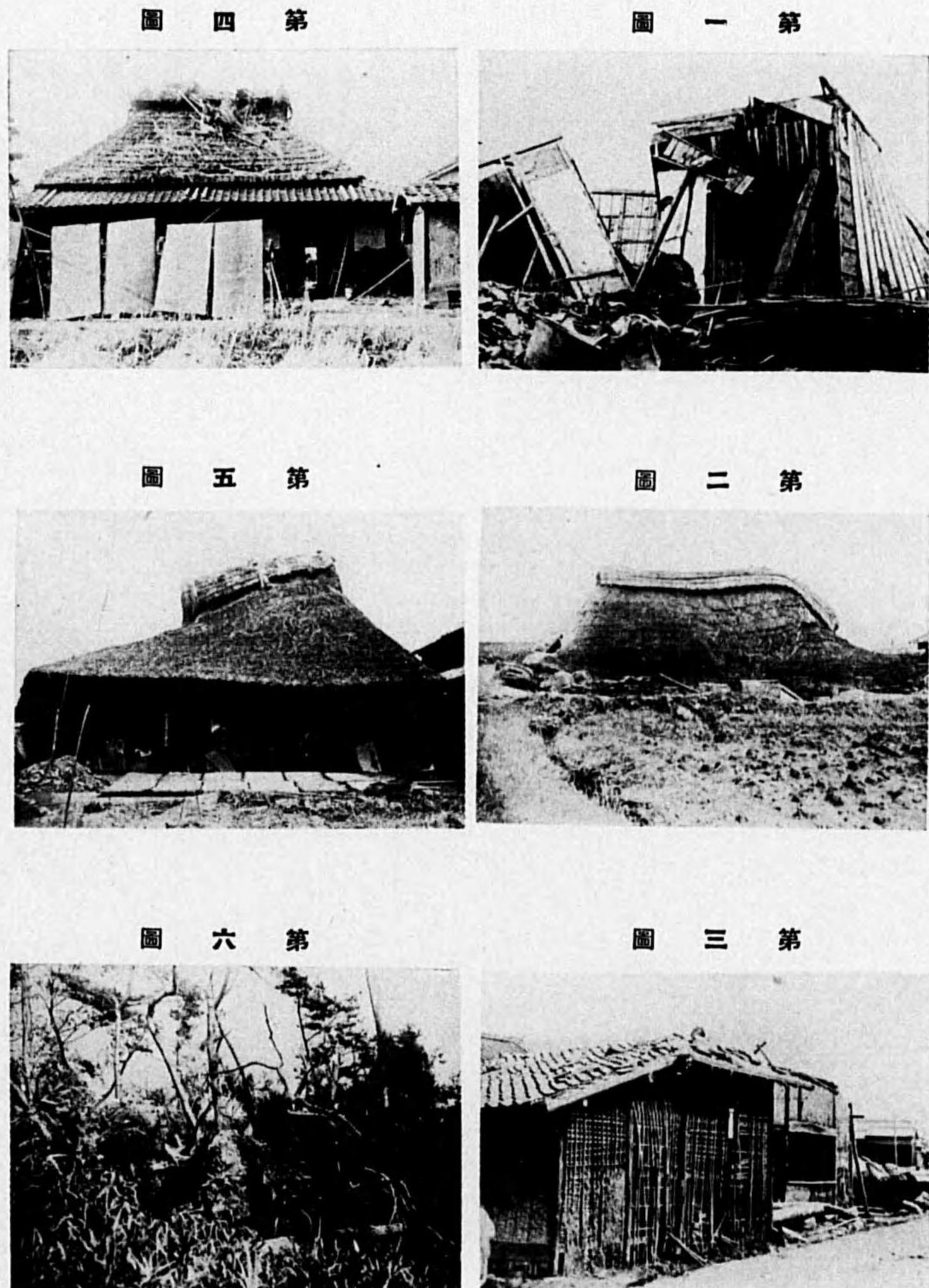
番號	發火時刻		湿度	氣温	鎮火時刻		番號	發火時刻		湿度	氣温	鎮火時刻	
	日	時分			日	時分		日	時分			日	時分
一	六	午後七頃	三六	二七・四	三	午後七頃	一五	三	午後二頃	三六	二七・七	三	午後三頃
二	七	午後二頃	三六	二七・四	三	午後二頃	一六	三	午後四頃	三六	二七・五	三	午後八頃
三	七	午後三頃	三六	二七・四	三	午後三頃	一七	三	午後五頃	三六	二七・三	三	午後五頃
四	八	朝(時刻不明)	三六	二七・四	三	午後八頃	一八	三	午後七頃	三六	二七・六	三	不明
五	九	午後一頃	三六	二七・四	三	午後九頃	一九	三	午後一頃	三六	二七・二	三	午後五頃
六	九	午後二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二〇	三	午後二頃	三六	二七・三	三	午後五頃
七	九	午後四頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二一	三	午後三頃	三六	二七・七	三	午後四頃
八	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二二	三	午後三頃	三六	二七・八	三	午後五頃
九	〇	午後一頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二三	三	午後三頃	三六	二七・五	三	午後七頃
一〇	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二四	三	午後四頃	三六	二七・六	三	午後七頃
一一	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二五	三	午後四頃	三六	二七・六	三	午後七頃
一二	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二六	三	午後六頃	三六	二七・七	三	午後八頃
一三	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二七	三	午後六頃	三六	二七・八	三	午後八頃
一四	〇	午前二頃	三六	二七・四	三	午後九頃	二八	三	午後六頃	三六	二七・九	三	午後八頃
平均			三六	二七・四						三六	二七・七		

風向風速ト燒跡 四國內陸地方ノ山間地ニ於ケル四、五月頃ノ晴天ノ日ハ大體ニ於テ早朝或ハ日出後マテ霧ニ覆ハルルモ、日中ハ晴天トナリ日照ハ八〇%以上、蒸發量ハ六耗以上ニ及フコト稀ナラス、從テ斯ル日ニハ風速モ至ツテ弱ク日暮頃ヨリ翌日ノ午前十一時頃マテハ靜穩ナルコト多シ、午前十一時頃ヨリ午後七時頃マテハ南乃至東寄リノ風向多ク、風速ハ弱ク平均風速二^{米/秒}ヲ越ユルコトハ殆トナシ、故ニ發火當時ハ現地ノ山野ニ於テモ和風程度ト思ハルルカ、災火盛ンニ炎上スルト共ニ局部的上昇氣流ヲ生シテ疾風程度以上ノ風速ヲ生スルコトモアルヘシ、火災ハ風速ノ強クナルニ從テ長引クモノニシテ徳島縣美馬郡東祖谷村劔山麓ニ於ケルモノノ如ク烈風程度ノ風アリ燃燒時間ハ四十時間以上ニ及ヒ、疾風強風程度ノ風アル場合ハ十時間以上ニ及ヒタルモノ多シ、又燃燒ノ速度ハ原野最モ早ク、火災地カ原野ニテ主ニ燃燒物カ枯草茅等ナル時ハ一時間ノ燒跡一〇町步ヲ越ユルモノアリ雜木林ハ之ニ次キ、針葉樹ノ植林地ハ割合ニ遅キカ如シ、和風以下ノ風速下ニ於ケル火災ハ四時間以上燃エ續キタルモノハ尠ナシ、尙發火場所及火災地ノ地形、防火方法及其ノ難易、燃燒物ノ種類其ノ他ノ詳細ニ至リテハ現地調査ニ據ルノ外知ルヲ得サルモ、被害地ノ林況ニヨツテ見ルニ、雜木林ノ燒失最モ多ク全體ノ約七割強ニ當リ、次ニ原野地、植林地ノ順序トナリ植林地ノミノモノ及原野ノミノモノハ至ツテ稀ナリ。

發火回数多カリシ日ノ毎時氣象表 (本山)

日	時刻	氣温	濕度	氣壓(海面)	風速	風向	日照	雲量	雲形	發火アリタル時間
12	10	18.8	50	763.2	0.5	W	1.00	0	K	
	11	22.5	44	762.5	0.2	-	1.00			
	12	25.4	30	762.1	0.5	E	1.00			
	13	27.9	33	761.2	0.2	-	1.00			
	14	27.7	36	760.9	1.2	ESE	1.00			
	15	27.4	39	761.0	1.3	SSE	1.00			
	16	26.5	37	761.2	0.8	SE	1.00			
	17	26.5	38	761.5	0.6	E	1.00			
	18	23.9	39	762.0	0.6	ESE	0.45			
	19	21.6	41	762.8	0.5	ESE	-			
	20	18.8	56	763.8	0.0	-	-			
	21	16.9	72	764.8	0.0	-	-			
	22	15.2	79	765.3	0.8	SW	-			
	23	14.1	84	765.8	0.2	-	-			
24	13.2	89	765.9	0.0	-	-				
13	1	11.9	92	765.0	0.4	-	-			
	2	11.3	93	766.0	0.6	SW	-			
	3	10.4	92	766.2	0.6	SW	-			
	4	9.8	95	766.4	0.1	-	-			
	5	9.3	94	766.5	0.2	-	-			
	6	9.2	95	767.2	0.1	-	0.13	10	CS.C.	
	7	10.0	93	767.3	0.4	-	1.00			
	8	12.2	79	767.1	0.1	-	1.00			
	9	15.6	65	766.7	0.0	-	1.00			
	10	19.5	55	766.0	0.1	-	1.00			
	11	23.8	43	765.1	0.8	E	1.00			
	12	25.8	37	764.2	0.8	E	1.00			
	13	28.1	30	763.7	1.2	E	1.00			
	14	28.5	35	763.1	1.3	SE	1.00			
15	27.7	41	763.0	2.1	S	1.00				
16	25.5	49	763.3	3.0	SSE	0.90				
17	24.7	52	763.7	2.1	S	0.95				
18	23.6	55	764.1	0.4	-	0.08				
19	21.2	60	765.1	0.6	ESE	-				
20	19.6	65	765.5	0.0	-	-				
21	17.5	81	766.4	0.1	-	-				

發火アリタル時間



播磨香呂盆地ニ於ケル旋風被害状況 (昭和八年六月十七日十八日現在)

山火事番號	天氣	風向	風力	燒續時間	燒跡面積
1	晴	-	和風	24.0	89.65
2	同	S	烈風	11.0	100.00
3	-	-	-	44.0	46.00
4	-	-	-	約 45.0	70.00
5	晴	-	靜穩	5.0	20.00
6	同	-	-	1.3	0.10
7	同	-	無風	4.0	2.75
8	同	-	和風	6.0	40.00
9	同	S	軟風	2.5	7.00
10	同	W	靜穩	3.0	1.70
11	-	-	-	3.0	1.70
12	晴	S	和風	7.0	100.00
13	-	-	-	-	-
14	-	-	-	15.0	-
15	晴	-	疾風	1.6	0.60
16	同	NW	-	4.0	-
17	快晴	NW	疾風	24.0	250.00
18	-	-	-	-	10.00
19	-	-	-	4.0	4.00
20	-	-	-	3.0	6.00
21	晴	-	無風	1.5	3.00
22	同	W	靜穩	1.5	2.00
23	同	SE	和風	3.5	1.50
24	同	W	靜穩	2.5	1.40
25	-	S	烈風	42.0	600.00
26	晴	-	靜穩	7.0	1.10
27	快晴	N	同	0.5	0.10

現地ノ天氣ト風及燒續時間ト燒跡面積

播磨香呂盆地ニ於ケル旋風調査報告

林業試験場技手 勝 谷 稔

昭和八年六月十四日午後五時過キ播磨國神崎郡香呂村ヲ中心トシ強烈ナル旋風發生シ雷ト共ニ直徑壹錢銅貨大ノ降雹アリ僅々十數分時ニシテ家屋ヲ倒潰シ田畑ヲ荒廢シ被害激甚ヲ極メタリ昭和八年六月十七日ヨリ十九日ニ亘リ災害地ヲ實地ニ踏査シタル被害ノ狀況旋風渦動ノ經過等ニ就キ報告スヘシ。

被害地ハ源ヲ生野町附近ニ發シ南ニ流下セル市川沿岸ノ中流盆地ニシテ北ハ播但線福崎驛附近ヨリ南ハ仁豊野驛附近ニ至ル南北約十軒東西ハ溝口驛附近ニ於テ約五軒ナリ即チ南北ニ長キ楕圓形盆地ナリ而シテ仁豊野驛以南ノ峽谷ヲ經テ更ニ姫路市以南ノ海岸大平野ニ接續セリ又市川ノ東約十七軒ニハ市川ト平行シテ南ニ流下スル加古川アリ之レ亦廣大ナル沿岸平地ヲ有セリ而シテ市川ト加古川トノ兩盆地ノ中間ニハ二百米内外ノ丘陵山地點在シテ兩盆地ヲ區劃セリ。

被害ハ播但線香呂驛附近ニ始リ香呂盆地ノ全部ニ及ヒ更ラニ帶狀ヲナシテ加西郡北條町ヨリ加東郡瀧野村ニ至レリ被害ノ最激甚ヲ極メタルハ播但線香呂驛附近ニシテ家屋ハ倒潰シ、倒潰セサルモノモ屋根ヲ吹き拂ハラレ、屋根ノ吹き拂ハレサルモノモ強勢ナル風ハ雹ト共ニ壁ヲ破リ室内ノ戸障子ヲ始メトシ

テ家具ヲ粉碎シ疊ニ泥土ヲ塗り慘憺タル狀況ヲ呈セリ又田畑ヲ見ルニ刈取ル許リトナレル麥ノ穂ハ勿論
 莖ヲモキ取り一望唯畝ヲ見ルノミ而シテ畦草ノ葉一枚モナク畑作物ニシテ残サレタルモノハ地下莖ナル
 じやがいもノミナリ庭樹ハ一葉ト雖モ餘スコトナク樹皮ヲ剝キ枝ヲ折リ幹ヲ倒ス等ハ各所ニ散見セリ而
 カモスノ如キハ尙忍フヘシ死傷者ヲ數多算スルノ悲惨事アリ我國ニ於ケル風害ニ依ル局所的慘事トシテ
 ハ蓋シ最大ナルモノトイフヘシ福崎警察署管内ノ被害ニ就テ同署ノ調査ニヨルモノ左表ノ如シ但シ六月
 十七日午前十時現在ナリ而シテ家屋ノ小損害例ヘハ硝子窓ノ破壊屋根瓦壁等ノ被害ハ計上セサルモノナ
 リ。

町村別	全壊家屋		半壊家屋		家屋被 害概算 額	死亡	重傷	輕傷	農作物被害	
	住家	非住家	住家	非住家					反別	金額
香呂村	一六	四六	二二	八	三、三三〇	三	〇	二四	一、八四三	八、〇七〇
福崎町	一	二〇	四	七	三、八二〇	〇	〇	二	四一〇	一〇、八七二
山田村	七	三三	四	二	二、四六〇	一	五	八	一、一五	四、三六〇
田原村	一〇	一七	一六	二	一、一四〇	一	六	三	二、八二〇	一〇、八二〇
豊富村	〇	四	一	一	七〇	〇	〇	〇	七〇	三、〇
船津村	〇	四	一	一	九、一七〇	〇	〇	五	二、八二〇	三、七〇〇
八千種村	四	九	三	一	五、二〇〇	一	〇	二	一、一六	四、三三〇

中寺村	〇	〇	一	九	五、五〇	一	〇	五	一、三三	五、〇〇〇
計	五三	一四	五	六	六、三三七	七	三	五	三、三三〇	四、一〇二

右表ハ家屋ノ被害戸數ニ就テ各町村別トナルモノ之レヲ字別ニスレハ左表ノ如シ。

町村別	字別	全壊家屋		半壊家屋		計	字別	全壊家屋		半壊家屋		計
		北廣瀬	香呂	中仁野屋	福崎新橋			南廣瀬	田野	須加院	馬崎前	
香呂村	北廣瀬	七	三	〇	〇	一四	南廣瀬	三	一	一	〇	六
福崎町	福崎新橋	三	一	二	三	六	馬崎前	二	一	一〇	一〇	二二
	高崎	三	一	五	六	九	福崎前	二	五	一〇	一〇	二二
山田村	南山	二	二	一	一	六	牧山	二	一	〇	〇	三
	西山	二	二	一	一	六	西野	二	一	〇	〇	三
大田門尻	大田	七	三	〇	〇	一四	野口	三	一	一	一	六
	門尻	三	一	〇	〇	四	北井	一	一	〇	〇	二
計	北廣瀬	一七	一	二	三	二一	南廣瀬	一	一	一	一	四
田原村	福崎新橋	三	一	二	三	六	馬崎前	二	五	一〇	一〇	二二
	高崎	三	一	五	六	九	福崎前	二	五	一〇	一〇	二二
山田村	南山	二	二	一	一	六	牧山	二	一	〇	〇	三
	西山	二	二	一	一	六	西野	二	一	〇	〇	三
大田門尻	大田	七	三	〇	〇	一四	野口	三	一	一	一	六
	門尻	三	一	〇	〇	四	北井	一	一	〇	〇	二
計	北廣瀬	一七	一	二	三	二一	南廣瀬	一	一	一	一	四

中 寺 村	八 千 種 村	船 津 村				豊 富 村							
		庄 貫 貫	東 大 貫	西 大 貫	余 田	御 立	三 又	上 野	仁 色	正 垣	太 尾	八 川	八 反 田
0	1 3 1 3	1 3 8 1 1	2 1 8 0 0	1 3 5	2 2 5								
10	3 2 1 1	2 1 8 0 0		1 3 5									
10	4 5 2 4	3 4 6 1 1	3 4 6 1 1	3 5 0	3 5 0								
	小 南 鍛 倉 貫 谷	八 大 中 宮 幡 澤 野 脇		江 西 加 野 谷									
	1 1 3	2 1 8 3	2 1 10 1										
	7 3 7	3 0 6 0	1 2 5 1										
	8 4 10	5 1 4 3	3 5 2										

以上ハ神崎郡内ニ於ケル被害ナルカ加西郡北條町附近ヨリ加東郡瀧野村附近ニ至ル南北約二軒ノ带状ヲナセル區域ニ於テモ被害可ナリ大ナリ北條警察署管内ノ被害ニ就テ同署ノ調査ニヨルモノ左表ノ如シ

但シ六月十八日現在ナリ。

町 村 別	住 家		倉 庫		納 屋		工 場	塙 壁	煙 突	社 寺	電 柱	其 他	負 傷	死 亡	農 作 物 被 害 額
	全 潰	半 潰	全 潰	半 潰	全 潰	半 潰									
北 條 町	2	2	3	0	14	3	2	0	2	0	3	1	1	0	3,850
賀 茂 村	0	1	0	0	10	5	0	0	1	0	0	0	0	0	3,720
在 田 村	0	3	0	0	6	7	6	0	1	0	6	1	0	0	3,017
富 合 村	2	4	1	0	6	6	2	5	2	4	1	6	1	0	2,733
多 加 野 村	1	3	0	0	6	3	0	0	0	0	0	6	0	0	3,330
富 田 村	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1,783

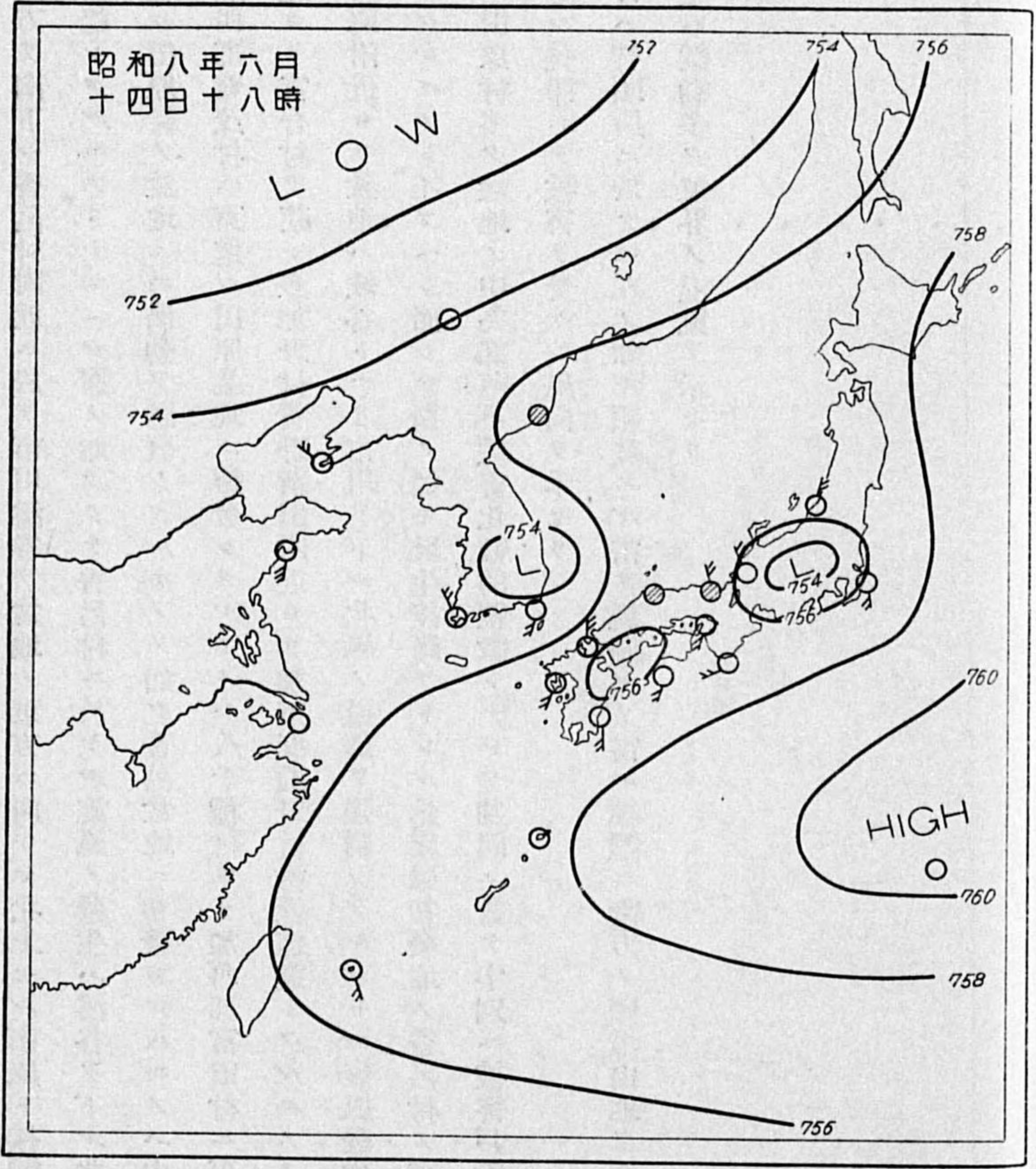
尙本表以外農作物ノ被害九會村二六、七〇〇圓下里村二五、八三八圓アリ

被害ノ狀況ハ寫真圖版ニ示スカ如シ但シ六月十七日及十八日現在ナリ第一圖ハ香呂驛前倉庫ノ破壊、第二圖ハ香呂驛裏練瓦工場ノ倒潰、第三圖ハ香呂村字中仁野高田龜太郎氏邸入母屋平入茅葺屋根ヲ吹キ拂ヒ土壁ヲ破損セルモノナリ以上ハ程度ノ高キ被害ナリ第四圖ハ香呂村字犬飼金井徳太郎氏邸ニ於ケル南面平入ノ入母屋茅葺屋根ノ被害ニシテ程度輕易ナルモ同家西側及北側ノ土壁ノ被害ハ第三圖高田龜太郎氏邸ト同様ナリ、第五圖ハ八千種村字八千種三四三八中塚藤吉氏邸ノ屋根ノ被害ニシテ南西ヨリ北西ニ向ツテ屋根ノ西側ノ妻ヲ押シ潰シ家屋モ亦傾斜セリ、第六圖ハ香呂村犬飼ニ於ケル神社ノ杜ノ被害ナ

リ。

借以上ノ如キ被害ヲ招來セル旋風ノ發生ニ關スル一般の機構ヲ見ルニ當時高氣壓ハ大洋ニアリ高氣
 壓ノ周縁ニ沿フテ淺キ低氣壓本邦中部ニ起リ南寄リノ暖風ト北寄リノ冷風ト相錯綜シ上下氣層ノ安定ヲ
 失シ各地ニ雷ノ發生ヲ見タルモノニシテ斯ノ如キ一般の狀態ニ對シ香呂盆地ノ地形ハ之レヲ助勢スルカ
 如キ條件ヲ具備シタル爲特ニ強勢ナル旋風ノ發生ヲ見タルモノトイフヘシ昭和八年六月十四日十八時ノ
 天氣圖左ノ如シ、今被害地ニ於ケル風向ニ就テ民家ニ於テハ風害ヲ受ケシ方向、立木ニ就テハ倒潰ノ方
 向、樹皮剝脫ノ方向等ニヨリテ旋風廻轉ノ狀況ヲ見ルニ概觀シテ盆地ノ西方福崎町附近及香呂村附近ニ
 於テハ北西ヨリ南東ニ倒サレ盆地ノ東方豐富村山田村八千種村等ニ於テハ南西ヨリ北東ニ倒サレ船津村
 及田原村ニ於ケル盆地ノ中央部落ハ大體ニ於テ西ヨリ東ヘ倒サレ旋風ノ廻轉ハ播但線溝口驛附近ニ於テ
 盆地ヲ南ト北トニ兩分シタル各南及北ノ盆地ニ於テ相共ニ時針ト反對ノ渦動ヲ起シタルモノノ如シ船津
 村大澤ニ於ケル實見者ノ話ハ最初香呂村ノ上空暗黒トナリ發雷スルト見ルヤ福崎町附近ニ及ヒ暫クニシ
 テ襲來シ旋風一過漸ク人心地ツキ外出シタル頃ニハ暗雲ハ小田村ノ谷ノ上空ニアリ西方ノ空ニハ既ニ晴
 雲ヲ見タル由ナリ又八千種村東大貫ニ於テ西南方向ノ風ニヨリテ北東ニ向ツテ倒潰セル中島光次氏邸ト
 道路ヲ距テテ相對セル民家ニアリテ其ノ倒潰ノ狀況ヲ目撃セル者ノ話ハ福崎町附近ノ雷ハ南方船津村方
 面ニ向ツテ襲ヒ迂回シテ襲來シ東方ニ去レリトノコトナリ以上ニヨリテ之レヲ見ルニ風ハ市川溪谷傳ヒ

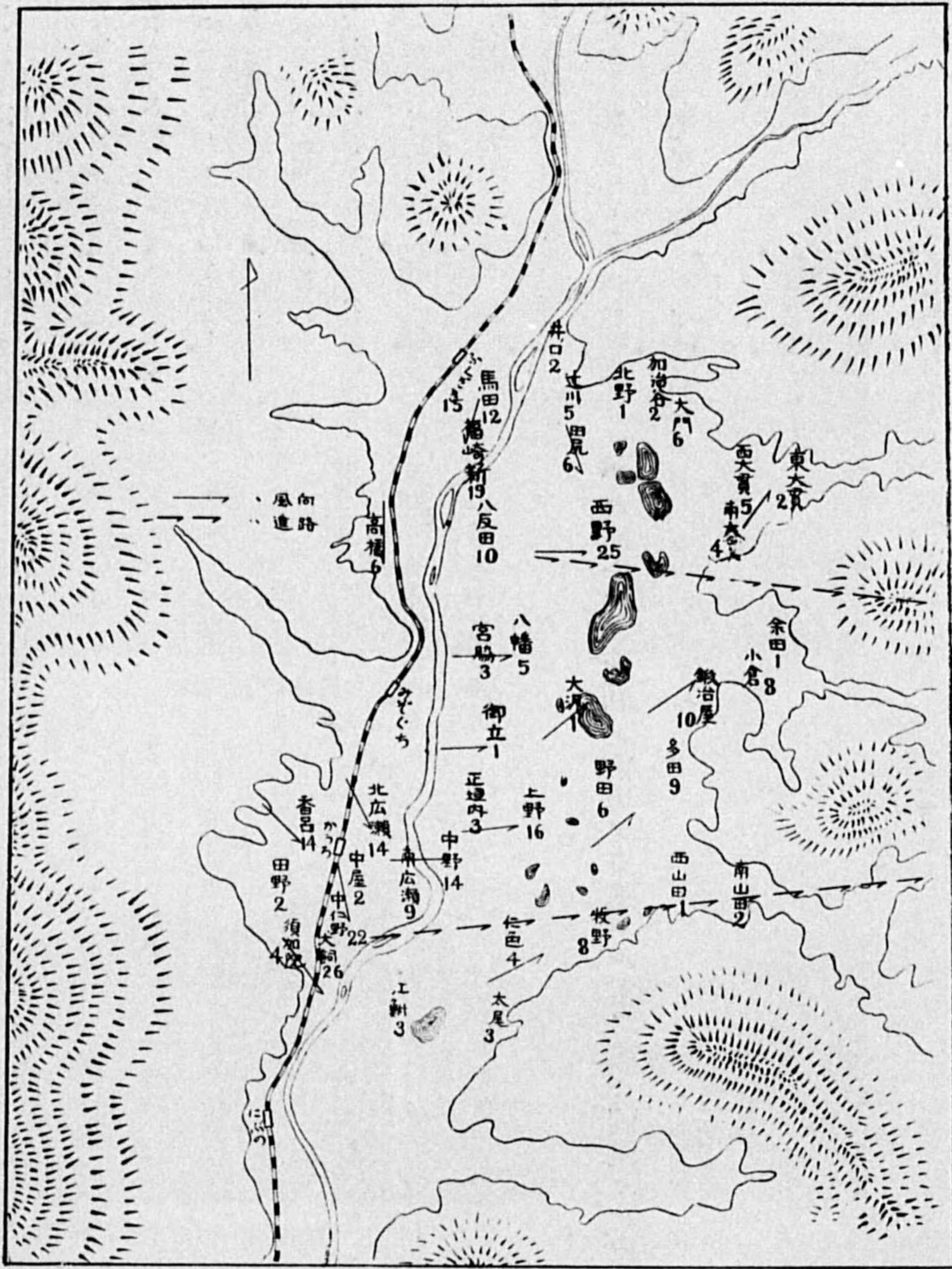
天氣圖



ニ盆地ノ西方ヲ南下シ香呂村附近ニ於テ市川溪谷ヲ盆地ノ東方ニ向ツテ北上セル南風ト接觸シ急激ナル
 上昇氣流ヲ起シタルモノトナスヘク斯ノ如クシテ香呂村ニ於ケル旋風ノ發生ハ溪谷ヲ下ル北西風ヲ更ラ
 ニ強ク誘發シ田原村ノ盆地ニモ渦動ヲ誘發シタルモノノ如ク香呂盆地ニ初發シタルモノハ山田村ノ溪谷
 ニ沿フテ加西郡賀茂村ニ東進シ田原盆地ニ續發シタルモノハ八千種村ヨリ加西郡富田村ニ東進シ相共ニ
 北條町附近ヨリ富合村ヲ荒シ多加野村青野新田附近ヨリ加東郡瀧野村附近迄進ミタルモノノ如シ即チ播
 但線仁豊野驛附近ヨリ盆地ハ峡谷トナリ市川ヲ下ル北風ノ通過ヲ強制シタルコトカ旋風發生ノ一般的機
 構ヲ助勢シタルモノトイフヘシ而シテ斯ノ如キ發生徑路ヲトレル爲旋風初發地ノ香呂村ノ被害最多ク次
 テ續發地ノ田原村多ク盆地ノ中央部落ハ被害比較的輕微トナレリ別圖ニ於テ字別ニ被害戸數ヲ附記シタ
 ル地名ヲ誌シ矢印ニテ被害ヲ受ケシ風向ヲ示セリ。

追テ當日ハ智頭所ニ於テモ左ノ如キ頻發スル雷ヲ觀測セリ雷ハ總體ニ南方ノ國境山地ヲ西ヨリ東ヘ移
 動セリ氣壓ニ微動多ク氣界ノ混亂ヲ示セリ。

旋風ノ進路ト風向

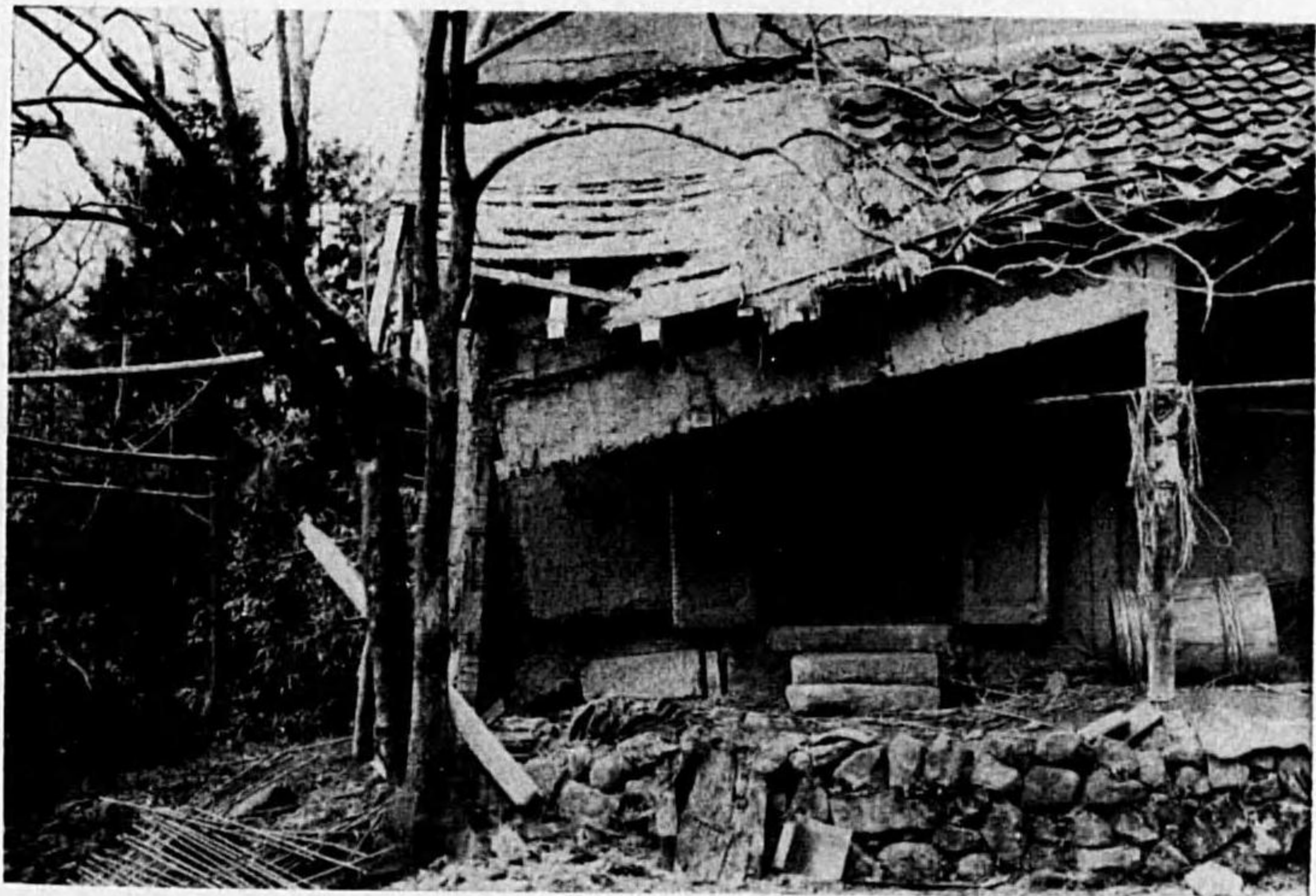


- T°W14.19—[Q°W15.31—16.02
- [Q°S15.31—[Q°SE15.42—15.44
- [Q°S15.49—[Q°SE15.51
- [Q°S15.59—16.00
- [Q°SW16.01—[Q°S16.03—[Q°SE16.05
- [Q°S16.09—[Q°SE16.13—[Q°E16.16—16.20
- [Q°S16.18—[Q°SE16.24—[Q°E16.29
- [Q°S16.32—[Q°SE16.33—[Q°E16.35—16.38
- [Q°SE16.39—[Q°E16.42—16.54
- [Q°SE16.56—[Q°E17.01—T°E17.10—17.17
- [Q°SE17.44
- T°SW20.01—[Q°SW20.06—[Q°S20.22—20.36

豊岡測候所ニ於テモ十二時二十分ヨリ十八時十五分迄其ノ南方ヲ東進スル雷ヲ多ク観測セル由ナリ即チ當日ハ各地ニ略時ヲ同シウシテ發雷シタルモノトイフヘシ。

鳥取縣岩美郡蒲生村ニ於ケル地ニ依ル被害寫眞

圖 一 第



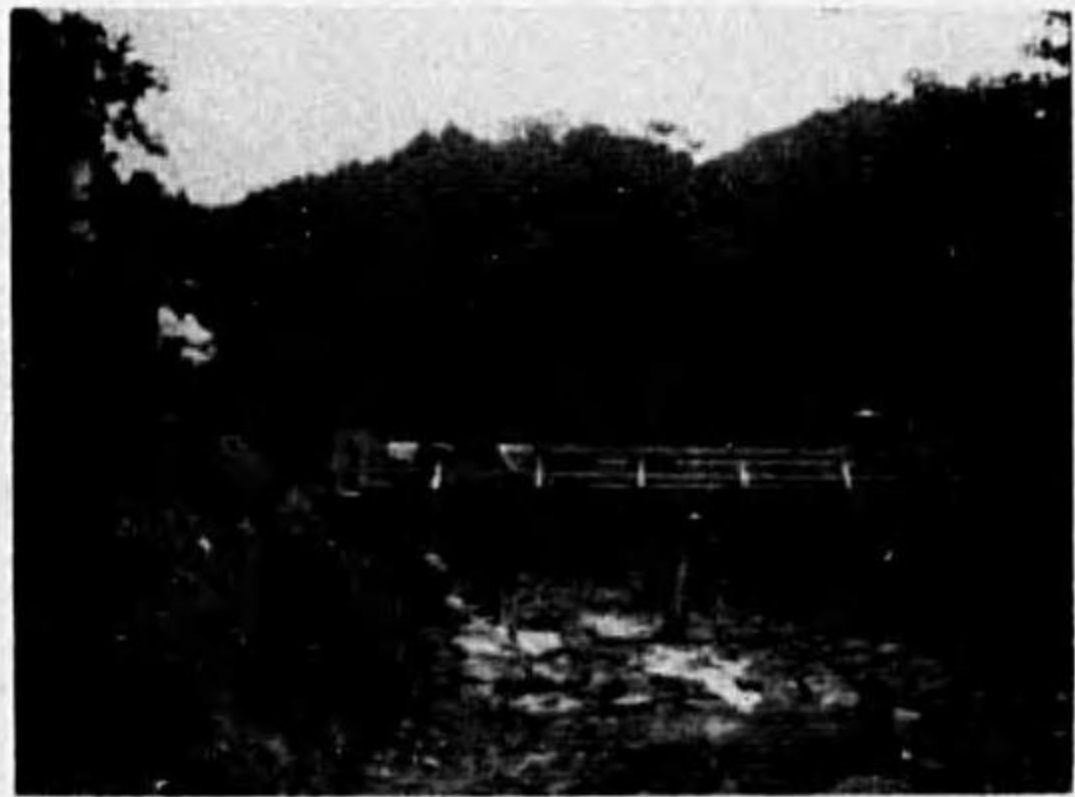
(影撮長課務林中田) 損 破 ノ 藏 土

圖 二 第



變 地 ノ 畑 田

圖 三 第



(影撮長課務林中田) 倒 傾 ノ 脚 橋

鳥取縣岩美郡蒲生村ニ於ケル地之概況報告

林業試驗場技手 勝 谷 稔

鳥取縣岩美郡蒲生村字洗井ニ地之アリ田畑家屋ニ可ナリノ損害ヲ見タル由ニ付昭和八年四月二十五日其ノ實狀ヲ視察シタレハ之レカ概況ヲ報告スヘシ。

地之ノ地域ハ洗井村ノ中横尾部落ヲ包含スル面積約五十町歩ノ鍛冶屋谷ニシテ地之ハ特ニ今年ニ限リタル現象ニアラス常ニ徐々ニ起リツツアルモノニシテ特ニ今年問題化シタルハ時局匡救事業ニ關聯シテ村當局ヨリ之レカ救濟ニ就テ具申アリタルニ端ヲ發セルモノノ如シ被害ノ程度ハ可ナリ大ナルモ地之運動徐々ナル爲外來者ノ見テ以テ其ノ慘害ニ驚異スルニ比スレハ地元民ハ案外安堵セリ寫眞圖版ノ第二圖ハ鍛冶屋谷ニ於ケル田畑ノ地變ニシテ同一水平面ニアリシ稻田カ地之ニヨリ段カツキ耕作上支障ヲ來シタルモノナリ第一圖ハ横尾部落ノ寺垣春之助氏方土藏ノ破損ニシテ地之ニヨリ其ノ南東側ノ隅低下シタル爲柱倒レ壁土落チタルモノナリ第三圖ハ向ツテ左側ノ河岸ノ斜面カ之リ出シタルタメ橋臺カ押シ出サレ其ノ爲橋モ右方ニ移動シタル結果橋脚カ傾キタルモノナリ以上ハ僅カニ其ノ一例ニ過キス鍛冶屋谷ヲ構成スル地塊ノ各方面ニ於テ此ノ種ノ障害ヲ與ヘツツアルモノニシテ地割レハ各所ニ起リ田畑道路ノ變

化アリ堤防ノ破壊アリ横尾部落約四十戸ノ家屋ハ何レモ多少ノ差アルモ被害ヲ受ケサルモノナク慘害可ナリ大ナリ。

鍛冶屋谷ノ地形ハ丘陵ニシテ南面シ洗井部落ノ道路ヨリハ約五十米ノ高距ヲ有シ起伏ニ富ミ段階ヲナシ水田トシテ之レヲ利用セリ土質ハ甚タ粗鬆ニシテ崩潰シ易キ觀ヲ呈セリ。

地ニ特ニ顯著ナルハ融雪期、梅雨期、颱風期ナリ又地割レニ棒ヲ突キ差スニ地表下數尺ニシテ青色粘土層ノ存在ヲ示セリサレハ地表ヨリ地下ヘノ滲透水量豊富ニシテ地下ニ於ケル該粘土層ニ達シ之レヲ濕潤ナラシムル爲此ノ粘土層ヲ境トシテ地ニ運動ヲ起スモノナルヘシ斯ノ如キ見地ヨリ之レヲ見レハ雪汁量竝降水量ト其ノ滲透狀況ノ差異トニヨリテ此ノ地方ノ地ニ運動ノ多少遲速ヲ論シ得ヘシ夏冬ニヨル地溫垂直分布ノ差異ハ土壤内水分ノ移動ニ原因スルモノ多ク地下ヘノ滲透容易ナルハ寒候期ヨリハ暖候期ナリ從ツテ寒候期ニハ比較的此ノ地方ノ地ニ運動ハ活潑ナラサルモノアルヘシ但シ此ノ地方ノ積雪量ハ年ニヨリ可ナリ大ニシテ且又長期ニ亘ルコトアルヲ以テ積雪ニヨル重量ノ増加ト徐々ナルモ日々ノ雪汁ニヨル滲透量トハ冬期ニアリテモ相當ノ地ニ運動アルヘシ。

而シテ暖候期ニ於テハ先ツ融雪直後ニ於ケル降雨ニヨリテ地ニ運動顯著ナルヘシ雪汁ニヨリ土壤ハ飽水ニ近キ狀況ニアリ一方地表溫度ノ高昇ハ地下ヘノ滲透ヲ容易ニスルヲ以テ降雨ニヨル地下ヘノ滲透量甚シク増加シ地ニ促進セシムヘシ本年四月上旬ノ降雨ニヨリ地ニ運動顯著トナリ此ノ地方ノ地ニ對

シ特ニ注意ヲ促ス近因ヲナサシメタル等ハ其ノ例ナリ梅雨期ニ於テモ同様ニシテ連日ノ降雨ニヨリ土壤ヲ飽水ニ導キ滲透量ノ増加ヲ促ス爲ニ地ニ運動顯著トナルヘシ而シテ以上兩者ハ其作用比較的徐々ニシテ急激ナル地變ナキヲ普通トスヘシ。

次ニ颱風期ニ於テハ其ノ作用ハ前二者トハ多少趣ヲ異ニシ其ノ襲來スルヤ單位時間ノ降水量甚タ多量ナレハ急激ナル滲透量ニヨリ地ニ作用ヲ急進セシムルモノアルヘシ最近ニ於テハ大正七年及大正十二年ノ何レモ九月中旬ニ於ケル颱風ノ大雨ニヨリテ特ニ地ニ顯著トナリタリト稱セラルルハ其ノ例ナリ尙地ニハ一度其ノ運動ヲ開始スルヤ其ノ後ニ於テハ僅カナル動機ニヨリテモ運動スルモノナルヘク斯ノ如キ意味ヨリスレハ颱風期ニ地ニ運動ノ活潑トナルコトハ其ノ後ノ運動ヲ促進スル有力ナル原因ヲナスモノトイフヘシ。

地ニ運動ハ地盤ノ狀況傾斜等ニ關係スルコト大ナリ右ニ述ヘタルハ一定ノ地盤ノ狀況ノ下ニ於ケル運動ノ多少遲速ヲ來タスヘキ氣象關係ニ就テ其ノ一端ヲ論シタルモノナルカ同様ノ見地ヨリ此ノ地方ノ地ニ運動防止ノ對策トシテハ降水量ノ地下ヘノ滲透量ヲ減少セシムル爲メニ地表流去量ヲ増加セシムルカ如キ施設ヲナスコト及ヒ地下水ノ排滌ヲ良好ナラシムルコトヲ急務トスヘシ。

原野ノ植物變遷ノ觀察

林業試驗場技手 石郷岡 健太郎

昭和二年十月沼尻森林測候所ノ觀測露場ヲ築造セル際露場ノ傍ニ植物調査區劃ヲ設ケタリ之ハ植物ノ全クナキ土地ニ植物ノ進入スル狀況及其ノ變遷ヲ觀察セントスルモノニシテ同所ハ元ハのき及ならノ混淆林ナリシ處ノ林木ヲ伐採シテ土地ヲ切り取り地均シ表土約一尺ヲ取り去リ心土ノ赤土ヲ露出セル所ナリ尙當所ハ福島縣ノ中部中央山脈ノ西側ニアリ海拔高八〇六米ノ高所ニ位ス。

調査ノ方法ハ一米四方ノ「コードラート」二箇ヲ設ケ毎年定期ニ現存セル植物ノ種類ト本數トヲ調フルモノニシテ昭和三年ヨリ毎年六月又ハ七月及九月ノ二回ニ之ヲ行ヒタリ而シテ調査セル結果ハ左ノ如シ。

原野植物變遷調査表

昭和三年七月													
%	本數												
53	18	めら	るつ	ら	も								
		き	ど	き	す								
21	7	な	が	な	に								
9	3	き	の	き	す								
9	3	ぎ	は	ぎ	き								
3	1	で	へ	で	か								
3	1	び	ら	び	わ								
-	-	ぶ	あ	ぶ	お								
-	-	き	す	き	ら								
-	-	れ	み	れ	す								
-	-	た	り	た	あ								
-	-	の	ふ	の	あ								
-	-	さ	き	さ	ん								
-	-	き	ん	き	お								
-	-	う	と	う	も								
-	-	よ	こ	よ	ぎ								
-	-	ぎ	ら	ぎ	し								
-	-	ぎ	も	ぎ	よ								
-	-	へ	な	へ	を								
-	-	が	み	が	ね								
-	-	が	み	が	ね								
101	34	計											

同 九月		同 四年六月		同 九月		同 八年六月		同 九月		同 十年七月		同 九月		同 六年七月	
%	本數	%	本數	%	本數	%	本數	%	本數	%	本數	%	本數	%	本數
8	9	22	14	49	34	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
54	60	56	35	28	19	39	84	56	101	44	67	57	103	57	78
1	1	2	1	4	3	3	7	2	3	4	6	8	15	2	3
2	2	8	5	10	7	2	4	1	1	1	2	-	-	1	1
1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	1	2	1	6	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	18	8	5	-	-	34	73	24	44	34	52	16	28	24	33
1	1	-	-	-	-	1	2	1	1	1	1	1	2	3	4
16	18	-	-	-	-	2	5	-	-	2	3	11	20	5	7
-	-	-	-	-	-	4	8	2	3	1	2	1	2	2	2
-	-	-	-	-	-	6	12	3	5	5	7	1	2	2	3
-	-	-	-	-	-	9	19	10	18	6	9	2	4	2	3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
101	112	102	63	99	69	103	217	102	180	100	151	100	181	101	137

同	九月		同		同	
	%	本數	%	本數	%	本數
	0	1	3	4	10	10
	52	124	45	55	55	57
	-	-	2	2	1	1
	1	2	1	1	3	3
	0	1	3	3	1	1
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	3	3
	25	60	33	40	18	19
	0	1	3	3	4	4
	-	-	9	11	5	5
	-	-	1	1	-	-
	4	9	2	2	-	-
	14	34	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
	3	7	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
	99	239	102	122	100	103

備考 つるうめもどきハ根葉、わらびハ地下莖殘存セルモノナラン又すのきモ殘根ヨリ發生セルモノナラン

「コードラート」丙ハ心土ヲ露出セルモノニテ植物ナカリシカ露出セル秋季ニ種子カ飛來シテ翌春ヨリ植物ノ進入ヲ見タリ最初ハ植物ノ種類少ク僅ニ二、三種(つるうめもどき、わらび、すのき)ノ如ク根或ハ地下莖殘存シアリタリ思ハルルモノヲ除キ)ナリ然ルニ年ヲ經ルニ從ツテ漸次植物ノ種類ヲ増加ス現今迄ノ經過ハ途中ニ消失或ハ新ニ發生セルモノアレト總數ニ於テハ次第ニ増加シ昭和八年六月ニハ十二種トナレリ又本數ヨリ之ヲ見ルニすのき類カ約八割ヲ占メテ優勢種トナリ萱野状態ヲ示スニ至レリ。

昭和九年三月二十八日印刷
昭和九年三月三十一日發行

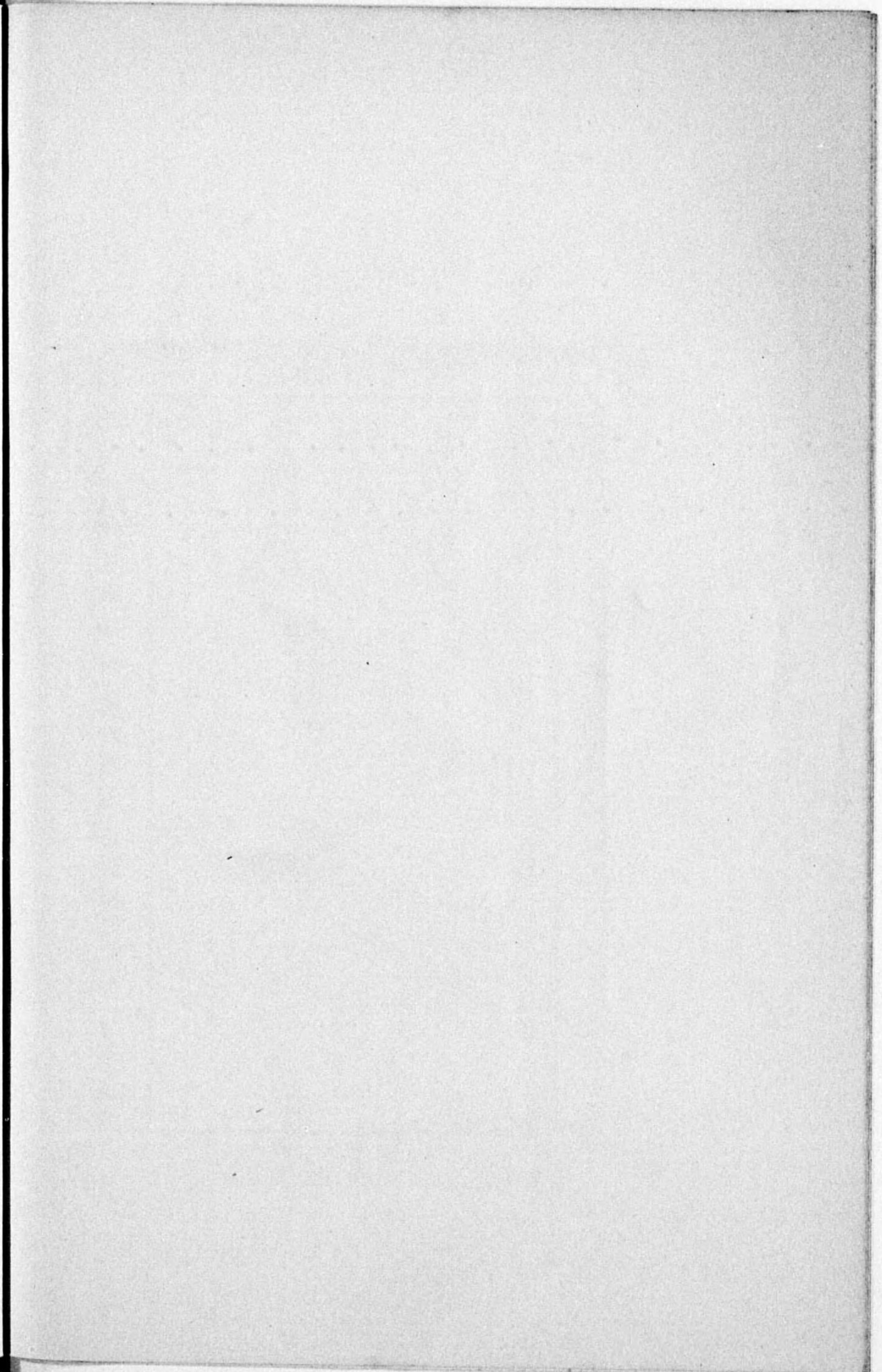
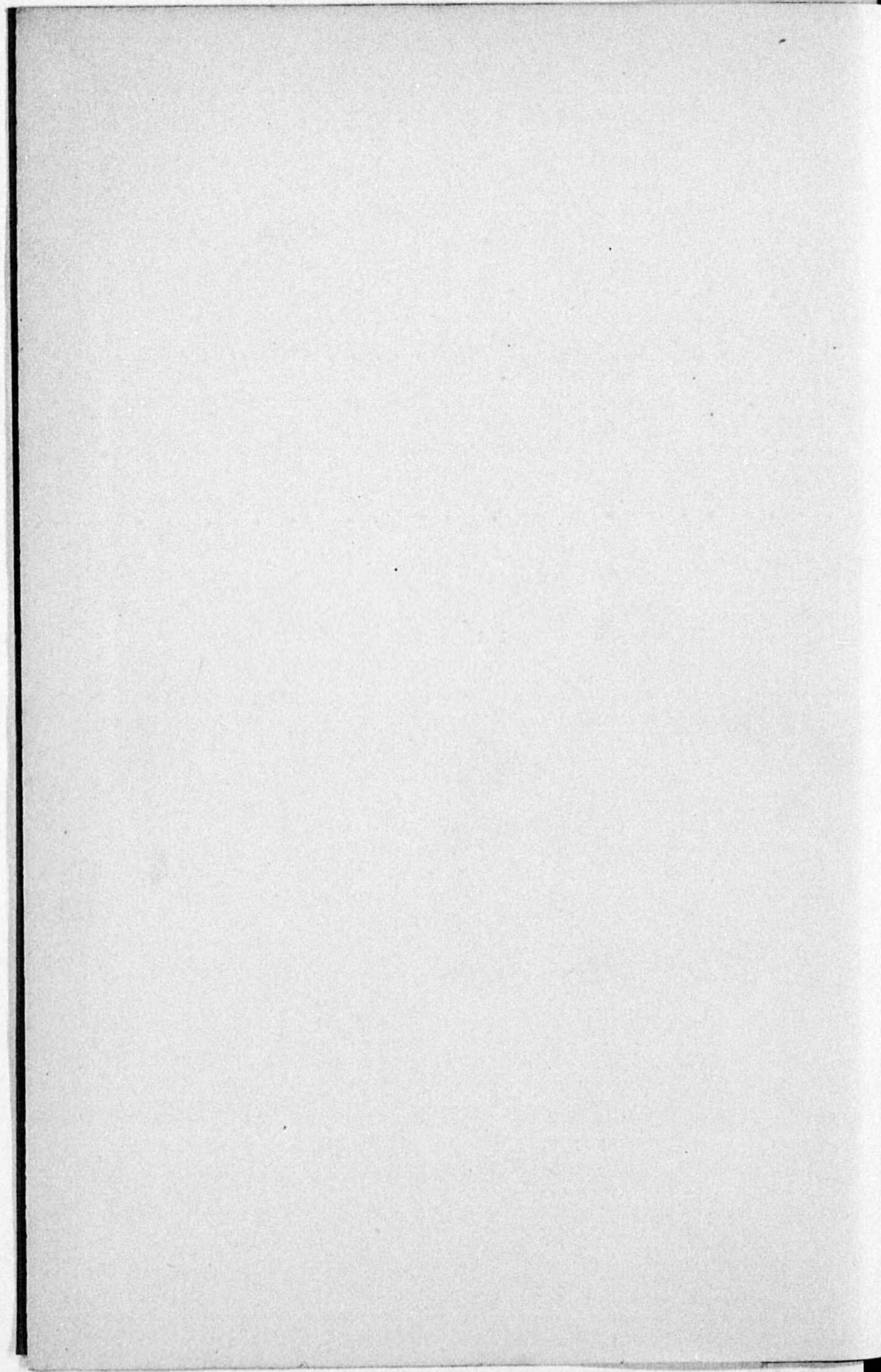
發行所 農林省林業試驗場

印刷者 石井精一郎
東京市京橋區西八丁堀三ノ七

印刷所 安信印刷所
東京市京橋區西八丁堀三ノ七
電話京橋二四九四番

治森林氣象彙報 第十四號 正誤表

頁	行	誤	正
二二	表中一行五段		
二〇六	第五表右差欄下ヨリ十一段	-1 VII	
一一一	第八表實測值欄下ヨリ二段	4.32	報告 ⁽³⁾ 5.32 +1 VIII
一五七	一	報告	
一七五	表中九月欄	一六—二一日	一七—二一日
一八六	第三表ノA、斧淵最高水位	一〇・二〇	一〇・一〇
一八九	第四表Aノ場合、斧淵實測増水位欄	2.54	2.45
一九三	本文一	頗發	頻發
二一〇	終ヨリ四	小田村	山田村



14.6
221

終